

令和元年10月21日（月）  
第7回 一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会

一般介護予防事業等の 推進方策に関する検討会 （第7回）	参考資料2
令和元年10月21日	

# 薬剤師や薬局の介護予防等の 取り組み事例について

（公社）日本薬剤師会  
理事 鵜飼 典男

## 薬局を利用した取り組み（北海道帯広市での例）

### 背景

地域住民より、薬局の研修室の利用について相談があり、薬局を地域住民の健康のために役立てるという観点から、薬や健康に関する薬剤師による勉強会を提案。町会長と日程を打ち合わせ、年数回の勉強会を開催。

### 内容

町内会の地域住民を対象に、平成24年開局以来、年数回の薬や健康に関する勉強会を開催。講師は当該薬局の管理薬剤師。毎回20～30名が参加。

### 成果

当初は講義を聞いていただく一方だったが、徐々に参加者から積極的に質問も出るようになり、また、参加者同士の情報交換の場になるなど、自主的な取り組みも見られるようになってきた。また、勉強会に参加できなかった地域住民にも配布していただいている。予防医学、セルフケア、自分が受けている医療に対する正しい知識と意識づけが向上し、薬局で調剤を利用するだけでなく、自らの健康のために活用する施設として受け入れが進んだ。

## 行政等と連携した取り組み（東京都練馬区での例）

### 背景

区内初の街かどケアカフェの開所時に訪問し、練馬区薬剤師会として支援できる内容について提示しておいた。定期的な薬剤師からの情報発信は地域の薬局から提供してもらい、それ以外に複数の薬剤師を必要とする相談会や啓発イベントなどの対応が必要な際は練馬区薬剤師会に要請していただくようお願いしていた。実際にはまだ要介護状態でない高齢者の様々な質問や要望に対応できる熟練した薬剤師の派遣要請があった。

### 内容

区内で初の開設となる街かどケアカフェでのお薬相談会の依頼を受け、練馬区薬剤師会で対応した。ケアカフェ運営側からの要望で、薬や治療、現状の健康状態の維持などについて、多くの素朴な疑問を持つ区民が多く、複数の経験のある薬剤師に対応してほしいとのことであった。

### 成果

相談は一人平均45分程であり、応需人数は9名であったが、すべての相談者の対応に3時間弱を要した。来所された区民の満足度は高く、日頃、処方箋による調剤を受けている薬局の薬剤師から得る情報との整合性が取れたことでさらに安心感を得たようであった。

日本薬剤師会「平成29年度地域包括ケアシステムにおける薬剤師・薬局の取り組み事例集」より抜粋

## 地域包括支援センターと連携した取り組み（青森県青森市での例）

### 背景

青森市では高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、介護・福祉・医療などの面から総合的に支援するため、平成18年4月に地域包括支援センターを市内の11の日常生活圏域に分け、それぞれの圏域ごとに1カ所設置した。

### 内容

地域包括支援センターでは保健・医療・福祉の関係機関や青森市高齢者介護相談協力員と連携を図り、地域の見守りを行っている。青森市高齢者介護相談協力員は町会長・民生委員・児童委員等その他、地域内の薬局も登録しており、各地域で定期的に行われる研修会などに参加し地域内での連携を図っている。

### 成果

地域包括支援センターのケアマネジャー等が訪問先で服薬に課題のある高齢者がいた場合に薬局に情報提供するなどの連携が進んでいる。また、薬局からの情報提供も進んでいる。

日本薬剤師会「平成29年度地域包括ケアシステムにおける薬剤師・薬局の取り組み事例集」より抜粋